厚生労働科学研究費（地域医療基盤開発推進研究事業）
歯科医療従事者の働き方と今後の需給等に関する調査研究
令和２年度　分担研究報告書

歯科衛生士の働き方と早期離職予防に関する調査

研究分担者　田野　ルミ　国立保健医療科学院生涯健康研究部　主任研究官
研究代表者　三浦　宏子　北海道医療大学歯学部　教授
研究分担者　福田　英輝　国立保健医療科学院　統括研究官
研究分担者　大島　克郎　日本歯科大学東京短期大学　教授
研究分担者　則武加奈子　東京医科歯科大学歯学部附属病院　助教

研究要旨

【目的】本研究は、全国の歯科衛生士養成機関の全ての卒業年次生を対象に、就労および職業に対する意識や意向を明らかにすること、首尾一貫感覚を指す sense of coherence（SOC）と職業観および就労観との関連を明らかにすることを目的とした。

【方法】全国の歯科衛生士養成機関およびその卒業年次生を対象とした、郵送法による無記名の自記式質問紙調査を 2019 年 11 月の 3 週間に実施した。養成機関より地域と修業年限の回答を得た。学生票の質問項目は、①属性（性別、年齢、昼・夜間部別、養成機関入学直前に修了した教育課程）、②歯科衛生士を志望してよかったと思うか、③歯科衛生士はやりがいのある仕事だと思うか、④生涯、歯科衛生士として働き続けたいと思うか、⑤歯科衛生士養成機関でのキャリア教育の受講経験、⑥ワークライフバランスの意向、⑦キャリア展望、⑧歯科関係の研修会等への継続参加希望、⑨認定歯科衛生士の取得意向、⑩SOC スケール、⑪歯科衛生士を長期継続するために重要なこと、⑫卒業直後に歯科衛生士として就職するか否か、⑬卒業直後の就職先での希望勤務年数、⑭就職先を決める際に重視すること、⑮卒業直後の就職に対する不安なこと、について質問した。

【結果】調査票を発送した 162 校の養成機関のうち、150 校から 6,270 名分の調査票の返送があった。歯科衛生士志望に肯定感がある者 60.7%、歯科衛生士として生涯勤続希望をしている者 50.4%、歯科衛生士の仕事にやりがいを感じる者 84.2%、キャリア展望が描けている者（描けている／やや描けている）43.0%、キャリア教育の受講経験がある者 27.2%、仕事と生活と両立を考えている者 76.3%、継続的に歯科関連の研修会等に参加希望の者（とても思う／やや思う）67.1%、認定歯科衛生士を取得意向のある者（とても思う／やや思う）49.7%だった。希望勤務年数は、「3～5 年未満」が最も多く 45.0%、次いで「5 年以上」36.1%、「3 年未満」18.9%だった。「3 年未満」を希望した者の生涯勤続希望者の割合は、「5 年以上」66.9%のおよそ 1/2 にあたる 33.5%だった。SOC 得点（最大 21 点）の平均（標準偏差）は 14.4（3.4）で、合計得点 12 点以上が全体の 85.7%を占めた。歯科衛生士学生の勤労観および職業観は SOC と有意に関連していることが示された（$p<0.01$）。また、歯科衛生士学生の職業観および就労観を、SOC 得点の低、中、高における平均点を分散分析で比較した結果は（$F(2,6225)=282.18$, $p<0.01$)であり、SOC 得点と職業観および就労観に関連性が示された（$p<0.01$）。

【結論】希望勤務年数が長いほど、学生の就労および職業に関する意識および意向に関して肯定的な回答が高率だった。歯科衛生士学生の SOC と職業観および就労観との関連性が明らかになり、歯科衛生士教育において SOC が意味する首尾一貫感覚を高める重要性が示唆された。

A. 研究目的

高齢化の進展に伴う医科歯科連携や地域包括ケアシステムの推進のなか、歯科保健医療提供体制の構築の観点から、歯科衛生士による口腔衛生管理の必要性が高まっている[1)]。地域での多様なニーズに応じた歯科口腔保健の提供には歯科衛生士の安定供給とともに、専門家としての知識と技術の向上が求められていることから歯科衛生士の就業継続が重要となる[2)]。しかし、就業歯科衛生士数は年々増加しているものの、歯科衛生士の免許取得者数に対する就業歯科衛生士数は約半数で推移している[3)]。大部分が女性である歯科衛生士の主たる離職理由は、従来から出産・育児といわれ[4-6)]、歯科衛生士の不足が問題視されてきた[7,8)]。歯科衛生士不足への対策は復職支援と離職防止の両方が必要であり[2)]、復職に関しては自治体や歯科医師会、歯科衛生士会を中心に復職支援事業が全国的に展開されている[9)]。歯科衛生士の年代別就業率の推移をみたこれまでの調査研究では、「20 歳代後半から 30 歳代前半にかけて急速に低下し、その後も低下し続ける」[2)] と報告されている一方で、「30 歳以上では就業者数が増加しており、特に 50 歳以上ではその傾向が顕著」[3)] との報告もあり、一定の復職状況がみられるものの更なる検討を要すると考える。なかでも、歯科衛生士養成機関を卒業して歯科衛生士として就職したのち 3～4 年以内に離職する者の増加[10)]、いわゆる新卒歯科衛生士と呼ばれる若年層の早期離職防止が課題となっている[2)]。

歯科衛生士学生は、歯科衛生士養成課程を通して専門的な知識と技術の習得のみならず、歯科衛生士を目指す過程で歯科医療従事者としての意識や態度を修得する。よって、歯科衛生士養成機関の卒業年次生の就業や職業に対する意向や意識を明らかにすることは、新卒歯科衛生士の早期離職対策を講じるうえで意義がある。特に近年では、歯科衛生士学生の就職支援において首尾一貫感覚を指す sense of coherence（以下、SOC）[11)] を考慮する必要がある[12)] と報告されている。よって、処理可能感、有意味感、把握可能感の 3 つの感覚で構成される SOC が[13)]、歯科衛生士学生にとってどのような効果をもつのか、さらに SOC の強弱による職業観と就労観の関連について検証することは、歯科衛生士教育への提言および新卒歯科衛生士の早期離職防止の検討に資すると考える。

そこで本研究は、全国の歯科衛生士養成機関の全ての卒業年次生を対象に、就労および職業に対する意識や意向を明らかにすること、SOC と職業観および就労観との関連を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

全国の歯科衛生士養成機関およびその卒業年次生を対象とした、郵送法による無記名の自記式質問紙調査を 2019 年 11 月の 3 週間に実施した。調査票は養成機関用（以下、養成機関票）と学生用（以下、学生票）の 2 種とし、養成機関より地域と修業年限の回答を得た。対象の養成機関は 162 校であり、3 年制である短期大学および専門学校が 153 校（94.4%）、4 年制である大学が 9 校（5.6%）だった[14-16)]。

学生票の質問項目は、①属性（性別、年齢、昼・夜間部別、養成機関入学直前に修了した教育課程）、②歯科衛生士を志望してよかったと思うか、③歯科衛生士はやりがいのある仕事だと思うか、④生涯、歯科衛生士として働き続けたいと思うか、⑤歯科衛生士養成施設でのキャリア教育の受講経験、⑥ワークライフバランスの意向、⑦キャリア

展望、⑧歯科関係の研修会等への継続参加希望、⑨認定歯科衛生士の取得意向、⑩SOC 3- UTHS ; University of Tokyo Health Sociology version of SOC 3 scale（東大健康社会学版 3 項目 SOC スケール）[17]、⑪歯科衛生士を長期継続するために重要なこと、⑫卒業直後に歯科衛生士として就職するか否かを質問した。卒業直後に歯科衛生士として就職すると回答した者からは、⑬卒業直後の就職先での希望勤務年数、⑭就職先を決める際に重視すること、⑮卒業直後の就職に対する不安なこと、について質問した。

用語の定義は先行研究[18]に準拠し、キャリア展望は「仕事における将来設計」、キャリア教育は「将来設計に関する教育」として調査票にも明記した。早期離職は、厚生労働省の「新規学卒就職者の離職状況」[19]にそって 3 年未満の離職とした。

SOC スケールの質問は、「私は、日常生じる困難や問題の解決策をみつけることができる」「私は、人生で生じる困難や問題のいくつかは、向き合い、取り組む価値があると思う」「私は、日常生じる困難や問題を理解したり予測したりできる」の 3 つである。この 3 項目を、7 ポイント（よくあてはまる：1～まったくあてはまらない：7）の SD 法で回答を得た。SOC は各項目のスコアをすべて逆転したうえで、個々人の合計点数を 1 ポイント 1 点とした総得点を使用し、得点が高いほど SOC が強く、ストレス対処能力が高いと評価する[13]。

解析について、まず地域を、「北海道」「東北」「関東・甲信越」「東海」「近畿・北陸」「中国・四国」「九州・沖縄」に区分し[14]、養成機関と学生の両方からの回答が得られたデータを連結してクロス集計を行った。卒業直後の就職先での希望勤務年数（以下、希望勤務年数）別においては、「3 年未満」「3～5 年未満」「5 年以上」に分けた[20]。SOC スケールには、高低の基準やカットオフポイントが定められていない[13]ため、集計および分析にあたり本調査結果に基づいて 3～12 点を低群、13～16 点を中群、17～21 点を高群として 3 群に分けた。

分析は SPSS Statistics Ver.25.0（日本 IBM）を使用して χ^2 検定ならびに一元配置分散分析を行い、有意水準は 5%とした。一元配置分散分析に際し、職業観と就労観に関する質問の回答を、卒業後すぐの就業先で希望する勤務年数が 3 年以上を 1 点、歯科衛生士の志望はよかったか、歯科衛生士として働き続けたいか、歯科衛生士はやりがいのある仕事だと思うかについて「はい」を 1 点、キャリア展望の「描けている・やや描けている」を 1 点、研修会等への継続参加の希望と認定歯科衛生士の取得意向の「とても思う・やや思う」を 1 点、キャリア教育の受講経験の「受けた」を 1 点、それ以外を 0 点として最高 8 点とした。職業観と就労観の点数と SOC の 3 群における平均点を分散分析で比較し、Tukey の方法で多重比較を行った。

調査票には回収用封筒を添付し、学生自身が回答済み調査票を密封し、養成機関が一括して返送する方法をとった。学生への調査票の配布および回収は養成機関へ依頼した。なお、本調査は全国歯科衛生士教育協議会の協力を得て行い、国立保健医療科学院の研究倫理審査の承認を得たうえで研究を実施した（承認番号：NIPH-IBRA#12254）。

C. 研究結果

調査票を発送した 162 校の養成機関のうち、150 校から 6,270 名分の調査票の返送があった（養成機関の返送率：92.6%）。分析対象は、養成機関票の有無にかかわらず返送があった学生票の 6,264 名分と、養成機関と学生の両方からの回答が得られた 141 校の

養成機関票と連結した学生 5,895 名とした。なお、150 校のうち、141 校からは養成機関と学生の両方から、残りの 9 校からは学生票のみの返送だった（図 1)。

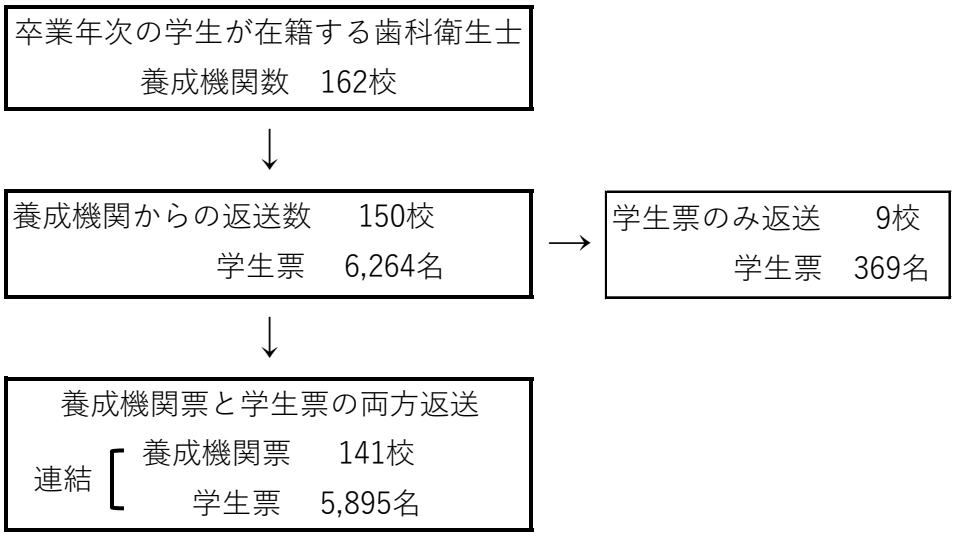


図 1.　調査票の返送結果

回答者は 99.9%が女子、年齢は「20 歳」から「64 歳」までの回答が得られ、平均年齢（標準偏差）は 21.7（3.5）歳で 20 歳代が 95.8%を占めた（表 1)。

学生全体の希望勤務年数の回答状況は、「3～5 年未満」が最も多く 45.0%、次いで「5 年以上」36.1%、「3 年未満」18.9%だった。地域別に希望勤務年数の割合の差（最低－最高）をみると、「5 年以上」13.0（29.0%－42.0%)、「3～5 年未満」5.8（41.8%－47.6%)、「3 年未満」11.1（14.7%－25.8%）であり、「3 年未満」の最も低いのは「東海」で高いのは「九州・沖縄」だった（表 2)。

学生全体のうち、歯科衛生士志望に肯定感がある者 60.7%、歯科衛生士として生涯勤続希望をしている者 50.4%、歯科衛生士の仕事にやりがいを感じる者 84.2%、キャリア展望が描けている者（描けている／やや描けている）43.0%、キャリア教育の受講経験がある者 27.2%、仕事と生活と両立を考えている者 76.3%、継続的に歯科関連の研修会等に参加希望の者（とても思う／やや思う）67.1%、認定歯科衛生士を取得意向のある者（とても思う／やや思う）49.7%だった（表 2)。

地域別にみた就労および職業に関する意識および意向の割合の差（最低－最高）については、歯科衛生士志望に肯定感がある 14.2（53.9%－68.1%)、歯科衛生士として生涯勤続希望をしている 16.9（41.8%－58.7%)、歯科衛生士の仕事にやりがいを感じる 9.8（78.9%－88.7%)、キャリア展望が描けている 6.4（38.8%－45.2%)、キャリア教育の受講経験がある 8.2（22.0%－30.2%)、仕事と生活の両立を考えている 3.7（74.1%－77.8%)、継続的に歯科関連の研修会等に参加したいと思う 8.8（62.1%－70.9%)、認定歯科衛生士を取得したいと思う 9.8（45.4%－55.2%）であり、歯科衛生士志望に肯定感

をもつ者と歯科衛生士として生涯勤続を希望する者の割合に 10.0%以上の地域差が示された。

表1.　地域別にみた歯科衛生士卒業年次生の属性

人数

		合計	北海道	東北	関東・甲信越	東海	近畿・北陸	中国・四国	九州・沖縄
		N=5,895(141校)	n=259（10校）	n=384（11校）	n=1,908（41校）	n=855（20校）	n=1,054（20校）	n=683（19校）	n=752（20校）
性別	女	5,811(99.9%)	257(100.0%)	377(99.7%)	1,883(99.8%)	841(99.8%)	1,033(100.0%)	676(99.9%)	744(100.0%)
	男	8(0.1%)	0(0.0%)	1(0.3%)	4(0.2%)	2(0.2%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)
年代	20歳代	5,609(95.8%)	256(98.8%)	375(97.7%)	1,753(92.7%)	829(97.5%)	998(95.4%)	671(99.3%)	727(97.1%)
	30歳代	199(3.4%)	2(0.8%)	6(1.6%)	108(5.7%)	18(2.1%)	42(4.0%)	3(0.4%)	20(2.7%)
	40歳代	41(0.7%)	1(0.4%)	3(0.8%)	27(1.4%)	2(0.2%)	4(0.4%)	2(0.3%)	2(0.3%)
	50歳代	5(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	3(0.2%)	0(0.0%)	2(0.2%)	0(0.0%)	0(0.0%)
	60歳代	1(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)	1(0.1%)	0(0.0%)	0(0.0%)	0(0.0%)
修業年限	３年制	5,690(96.5%)	259(100.0%)	384(100.0%)	1,866(97.8%)	855(100.0%)	987(93.6%)	648(94.9%)	691(91.9%)
	４年制	205(3.5%)	0(0.0%)	0(0.0%)	42(2.2%)	0(0.0%)	67(6.4%)	35(5.1%)	61(8.1%)
昼・夜間部別	昼間部	5,573(95.4%)	259(100.0%)	377(99.0%)	1,678(88.5%)	846(99.4%)	1,005(96.8%)	669(99.4%)	739(99.5%)
	夜間部	269(4.6%)	0(0.0%)	4(1.0%)	219(11.5%)	5(0.6%)	33(3.2%)	4(0.6%)	4(0.5%)
入学直前の教育課程	高校	5,108(87.1%)	234(90.3%)	344(89.6%)	1,608(84.8%)	750(88.0%)	888(85.3%)	601(88.5%)	683(90.9%)
	専門学校	392(6.7%)	19(7.3%)	26(6.8%)	121(6.4%)	58(6.8%)	68(6.5%)	55(8.1%)	45(6.0%)
	短期大学	144(2.5%)	1(0.4%)	5(1.3%)	57(3.0%)	24(2.8%)	41(3.9%)	5(0.7%)	11(1.5%)
	大学	184(3.1%)	2(0.8%)	7(1.8%)	94(5.0%)	14(1.6%)	41(3.9%)	14(2.1%)	12(1.6%)
	その他	35(0.6%)	3(1.2%)	2(0.5%)	17(0.9%)	6(0.7%)	3(0.3%)	4(0.6%)	0(0.0%)

表2.　地域別にみた歯科衛生士卒業年次生の希望勤務年数・就労および職業に関する意識および意向

人数

		合計	北海道	東北	関東・甲信越	東海	近畿・北陸	中国・四国	九州・沖縄
		N=5,895(141校)	n=259（10校）	n=384（11校）	n=1,908（41校）	n=855（20校）	n=1,054（20校）	n=683（19校）	n=752（20校）
希望勤務年数	5年以上	1,977(36.1%)	104(42.0%)	150(40.8%)	609(35.2%)	305(37.6%)	369(37.2%)	241(37.6%)	199(29.0%)
	3～5年未満	2,466(45.0%)	105(42.3%)	154(41.8%)	802(46.4%)	386(47.6%)	426(42.9%)	283(44.1%)	310(45.2%)
	3年未満	1,033(18.9%)	39(15.7%)	64(17.4%)	317(18.4%)	122(14.7%)	198(19.9%)	118(18.4%)	177(25.8%)
歯科衛生士志望の肯定感	はい	3,547(60.7%)	139(53.9%)	207(54.0%)	1,182(62.5%)	575(68.1%)	648(62.2%)	384(56.6%)	412(54.9%)
	いいえ	303(5.2%)	25(9.7%)	36(9.4%)	85(4.5%)	25(3.0%)	43(4.1%)	46(6.8%)	43(5.7%)
	どちらともいえない	1,995(34.1%)	94(36.4%)	140(36.6%)	623(33.0%)	244(28.9%)	351(33.7%)	248(36.6%)	295(39.3%)
歯科衛生士としての生涯勤続希望	はい	2,962(50.4%)	132(51.0%)	187(48.7%)	969(51.0%)	499(58.7%)	553(52.6%)	308(45.3%)	314(41.8%)
	いいえ	589(10.0%)	34(13.1%)	41(10.7%)	181(9.5%)	55(6.5%)	96(9.1%)	83(12.2%)	99(13.2%)
	どちらともいえない	2,326(39.6%)	93(35.9%)	156(40.6%)	751(39.5%)	296(34.8%)	402(38.2%)	289(42.5%)	339(45.1%)
歯科衛生士の仕事のやりがい	はい	4,946(84.2%)	208(80.9%)	322(84.3%)	1,609(84.6%)	753(88.7%)	876(83.4%)	585(85.9%)	593(78.9%)
	いいえ	61(1.0%)	7(2.7%)	5(1.3%)	19(1.0%)	5(0.6%)	10(1.0%)	4(0.6%)	11(1.5%)
	どちらともいえない	865(14.7%)	42(16.3%)	55(14.4%)	273(14.4%)	91(10.7%)	164(15.6%)	92(13.5%)	148(19.7%)
キャリア展望	描けている	476(8.1%)	21(8.1%)	16(4.2%)	175(9.2%)	54(6.3%)	98(9.3%)	57(8.4%)	55(7.3%)
	やや描けている	2,053(34.9%)	96(37.1%)	133(34.6%)	650(34.2%)	306(35.9%)	366(34.8%)	227(33.3%)	275(36.6%)
	あまり描けていない	2,597(44.2%)	107(41.3%)	193(50.3%)	817(43.0%)	385(45.2%)	459(43.7%)	307(45.1%)	329(43.8%)
	描けていない	754(12.8%)	35(13.5%)	42(10.9%)	259(13.6%)	107(12.6%)	128(12.2%)	90(13.2%)	93(12.4%)
キャリア教育の受講経験	受けた	1,593(27.2%)	59(22.9%)	93(24.3%)	570(30.1%)	217(25.6%)	230(22.0%)	205(30.2%)	219(29.2%)
	受けなかった	814(13.9%)	25(9.7%)	56(14.6%)	287(15.1%)	107(12.6%)	164(15.7%)	68(10.0%)	107(14.2%)
	覚えていない	3,456(58.9%)	174(67.4%)	234(61.1%)	1,039(54.8%)	525(61.8%)	653(62.4%)	406(59.8%)	425(56.6%)
ワークライフバランスの意向	仕事と生活と両立	4,482(76.3%)	192(74.1%)	296(77.1%)	1,425(75.0%)	652(76.5%)	817(77.8%)	525(77.3%)	575(76.7%)
	仕事優先	366(6.2%)	18(6.9%)	24(6.3%)	135(7.1%)	48(5.6%)	50(4.8%)	46(6.8%)	45(6.0%)
	生活優先	1,026(17.5%)	49(18.9%)	64(16.7%)	340(17.9%)	152(17.8%)	183(17.4%)	108(15.9%)	130(17.3%)
継続的な研修会参加希望	とても思う	985(16.8%)	44(17.0%)	63(16.4%)	367(19.3%)	125(14.7%)	184(17.5%)	105(15.4%)	97(12.9%)
	やや思う	2,955(50.3%)	129(49.8%)	197(51.3%)	981(51.6%)	443(52.0%)	515(49.0%)	320(47.1%)	370(49.2%)
	あまり思わない	1,537(26.1%)	58(22.4%)	108(28.1%)	432(22.7%)	228(26.8%)	289(27.5%)	200(29.4%)	222(29.5%)
	全く思わない	403(6.9%)	28(10.8%)	16(4.2%)	121(6.4%)	56(6.6%)	64(6.1%)	55(8.1%)	63(8.4%)
認定歯科衛生士の取得意向	とても思う	790(13.4%)	40(15.4%)	47(12.2%)	273(14.4%)	96(11.3%)	149(14.2%)	81(11.9%)	104(13.8%)
	やや思う	2,134(36.3%)	103(39.8%)	154(40.1%)	702(36.9%)	317(37.2%)	373(35.5%)	228(33.5%)	257(34.2%)
	あまり思わない	1,854(31.5%)	72(27.8%)	140(36.5%)	610(32.1%)	285(33.5%)	340(32.3%)	191(28.1%)	216(28.8%)
	全く思わない	433(7.4%)	31(12.0%)	26(6.8%)	137(7.2%)	70(8.2%)	69(6.6%)	49(7.2%)	51(6.8%)
	認定歯科衛生士を知らない	667(11.3%)	13(5.0%)	17(4.4%)	178(9.4%)	84(9.9%)	121(11.5%)	131(19.3%)	123(16.4%)

卒業直後に歯科衛生士として就職する 5,830 名（93.1%）について、希望勤務年数別に、就労および職業に関する意識および意向に関して肯定的な回答の割合をみた結果、すべての項目で希望勤務年数が長いほど高率を示した（図 2)。歯科衛生士の仕事にやりがいを感じている者、仕事と生活の両立を考えている者、歯科関係の研修会や勉強会に継続して参加を希望する者は、いずれの希望勤務年数でも半数以上を占めていたが、キャリア教育の受講経験はいずれも 3 割に達していなかった。

勤務年数が「3 年未満」を希望した者の生涯勤続希望者の割合は、「5 年以上」66.9%のおよそ 1/2 にあたる 33.5%だった。

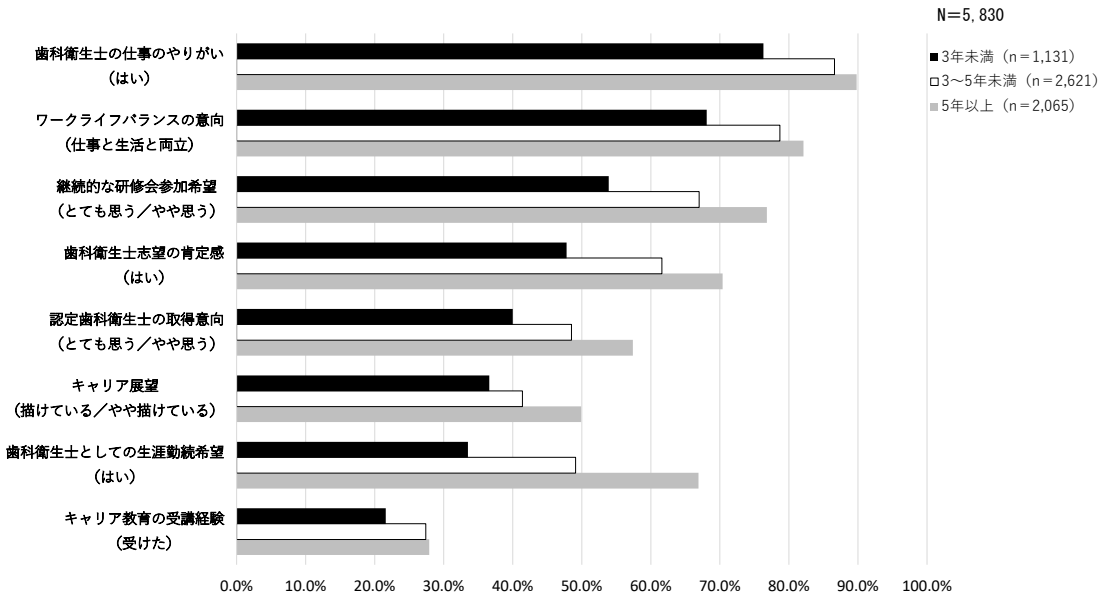


図 2.　歯科衛生士卒業年次生の希望勤務年数別にみた就労および職業に関する意識および意向

反転したスコアリング（最大 21 点）で学生ごとに 3 項目の合計得点を算出した結果、3-21 の範囲をとり、15 点が最も多く 1,013 名（16.2%）、次いで 12 点 1,008 名（16.1%）だった（図 3）。平均（標準偏差）は 14.4（3.4）で、合計得点は、12 点以上が全体の 85.7%を占めた。

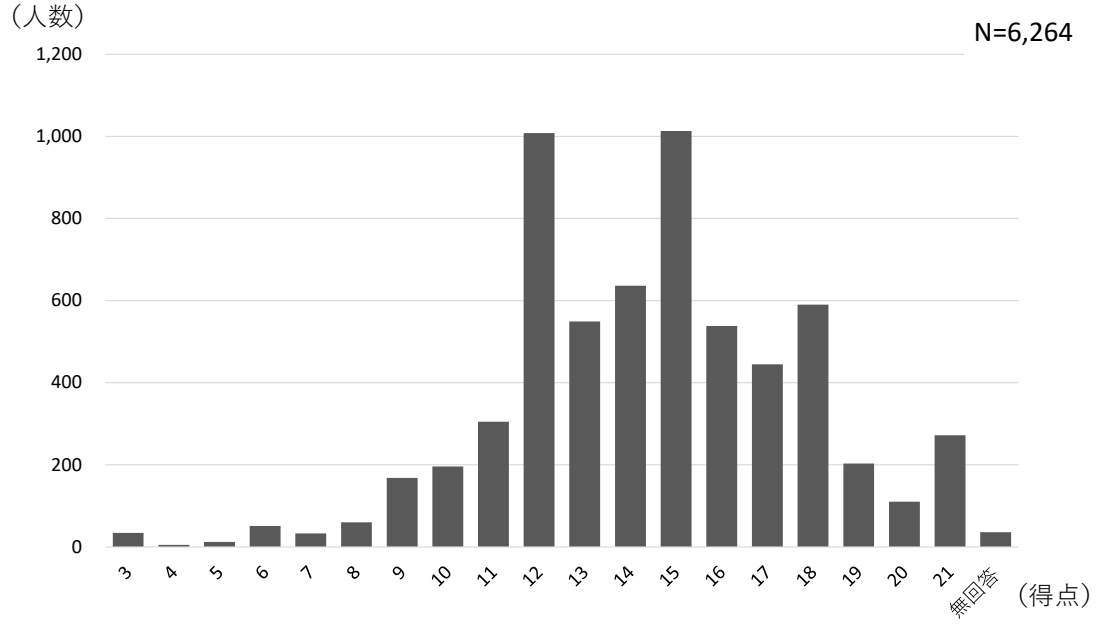


図 3.　歯科衛生士卒業年次生の sense of coherence スケール（SOC 3- UTHS）得点

SOC 得点の群別に勤労観および職業観に関する変数との関係を χ^2 検定によって有意性をみた結果（表 3)、歯科衛生士学生の勤労観および職業観は SOC と有意に関連していることが示された（p<0.01)。

表 3.　sense of coherence 得点の群別にみた職業観および就労観

n（%）

	合計 (n=6,228)	低群（3-12点） (n=1,872)	中群（13-16点） (n=2,736)	高群（17-21点） (n=1,620)	*P*値 （χ^2検定）
卒業後すぐの就職先での希望就業年数					
3年未満	1,122(19.4)	413(23.9)	450(17.6)	259(17.2)	
3～5年未満	2,612(45.1)	797(46.2)	1,190(46.5)	625(41.6)	<0.01
5～10年未満	1,425(24.6)	355(20.6)	677(26.4)	393(26.1)	
10年以上	629(10.9)	160(9.3)	243(9.5)	226(15.0)	
歯科衛生士を志望してよかった					
はい	3,738(60.5)	848(45.6)	1,692(62.3)	1,198(74.7)	
いいえ	315(5.1)	160(8.6)	109(4.0)	46(2.9)	<0.01
どちらともいえない	2,124(34.4)	851(45.8)	913(33.6)	360(22.4)	
歯科衛生士の仕事にたいするやりがい					
はい	5,232(84.3)	1,380(74.0)	2,375(87.0)	1,477(91.6)	
いいえ	65(1.0)	35(1.9)	18(0.7)	12(0.7)	<0.01
どちらともいえない	910(14.7)	449(24.1)	337(12.3)	124(7.7)	
生涯、歯科衛生士として働きたい					
はい	3,128(50.4)	709(38.0)	1,420(52.0)	999(61.9)	
いいえ	619(10.0)	256(13.7)	240(8.8)	123(7.6)	<0.01
どちらともいえない	2,464(39.7)	900(48.3)	1,073(39.3)	491(30.4)	
キャリア教育の受講					
受けた	1,639(26.4)	367(19.7)	702(25.7)	570(35.3)	
受けなかった	870(14.0)	244(13.1)	378(13.8)	248(15.3)	<0.01
覚えていない	3,702(59.6)	1,252(67.2)	1,651(60.5)	799(49.4)	
キャリア展望					
描けている	495(8.0)	67(3.6)	141(5.2)	287(17.8)	
やや描けている	2,159(34.7)	400(21.4)	990(36.2)	769(47.6)	<0.01
あまり描けていない	2,754(44.3)	947(50.8)	1,334(48.8)	473(29.3)	
描けていない	806(13.0)	452(24.2)	269(9.8)	85(5.3)	
研修会等に継続して参加したい					
とても思う	1,029(16.6)	166(8.9)	416(15.2)	447(27.7)	
やや思う	3,138(50.5)	848(45.4)	1,457(53.3)	833(51.6)	<0.01
あまり思わない	1,620(26.1)	630(33.7)	731(26.7)	259(16.0)	
全く思わない	427(6.9)	223(11.9)	129(4.7)	75(4.6)	
認定歯科衛生士を取得したい					
とても思う	819(13.2)	147(7.9)	334(12.2)	338(21.0)	
やや思う	2,262(36.4)	546(29.2)	1,053(38.5)	663(41.1)	
あまり思わない	1,960(31.6)	684(36.6)	868(31.8)	408(25.3)	<0.01
全く思わない	449(7.2)	213(11.4)	167(6.1)	69(4.3)	
認定歯科衛生士を知らない	722(11.6)	277(14.8)	310(11.3)	135(8.4)	

無回答を除く

歯科衛生士学生の職業観および就労観を、SOC 得点の低、中、高における平均点を分散分析で比較した結果（表 4)、(F(2,6225) = 282.18 , p<0.01)で、SOC 得点との関連は有意であった。Tukey 法で多重比較を行ったところ、SOC 得点の群間の平均点に有意差が認められ、SOC 得点と職業観および就労観に関連性が示された（p<0.01)。

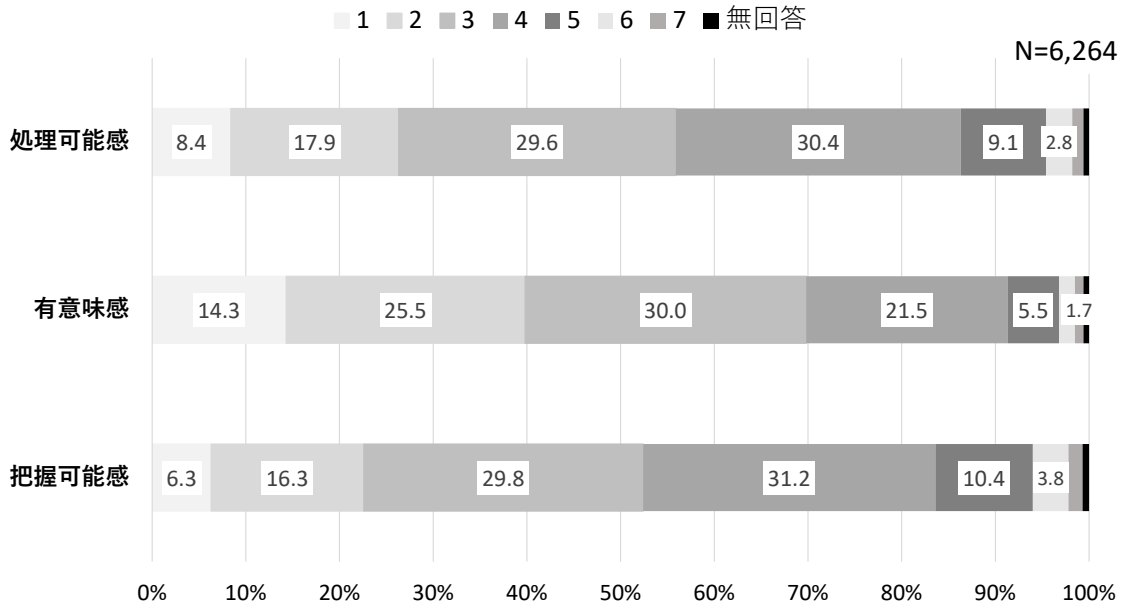
表 4. 歯科衛生士卒業年次生の SOC 下位感覚における職業観および就労観に関する点数と SOC 得点との関連

平均値（標準偏差）

SOC 下位感覚	合計	SOC得点 低群3-12	SOC得点 中群13-16	SOC得点 高群17-21	多重比較
処理可能感	4.73（1.249）	3.50（0.891）	4.73（0.704）	6.15（0.681）	*
有意味感	5.13（1.246）	3.86（0.978）	5.24（0.774）	6.40（0.604）	*
把握可能感	4.59（1.254）	3.42（0.951）	4.59（0.774）	5.94（0.771）	*

Tukey法
＊：p＜0.01
SOC: sense of coherence

SOC を 7 件法で得た結果（平均値、中央値、最頻値、標準偏差）、処理可能感（3.3、3.0、4、1.2）と把握可能感（3.4、3.0、4、1.3）は回答の傾向が近似していたが、有意味感（2.9、3.0、3、1.2）は他の感覚に比べて平均が低値だった（図 4）。



【質問文】
処理可能感：私は日常生じる困難や問題の解決策をみつけることができる
有意味感：私は人生で生じる困難や問題のいくつかは向き合い取り組む価値があると思う
把握可能感：私は日常生じる困難や問題を理解したり予測したりできる
【選択肢】よくあてはまる：1～まったくあてはまらない：7

図 4.　歯科衛生士卒業年次生の sense of coherence 下位感覚別にみた得点の割合

D. 考察

本研究は、日本国内のすべての歯科衛生士養成課程の卒業年次生を対象に、自記式質問票調査によって歯科衛生士学生の就労および職業に対する意識や意向を明らかにするとともに、SOC と職業観および就労観との関連を検証した、横断的な悉皆調査である。調査した 2019 年度の歯科衛生士国家試験受験者数が 7,216 名だったことから [21]、在籍状況や受験資格者数の変動を考慮しても、今回得られた 6,270 名の回答は高率であるといえる。学生の約 9 割が、高校卒業後に昼間部の 3 年制に進学していた 20 歳代女性であることが確認できた。卒業後の就職先での「3 年未満」の勤務を希望した者は約 2 割を示し、その割合は地域で差があった。歯科衛生士志望の肯定感と生涯勤続希望についても地域間の違いがみられた。希望勤務年数が長いほど、学生の就労および職業に関する意識および意向に関して肯定的な回答が高率だった。また、希望勤務年数が「3 年未満」の生涯勤続を希望する者の割合は、「5 年以上」のおよそ 1/2 だった。さらに、歯科衛生士学生の SOC と職業観および就労観との関連性が明らかになり、歯科衛生士教育において SOC が意味する首尾一貫感覚を高める重要性が示唆された。

本調査の結果から、歯科衛生士として初めての就職先で 3 年未満の勤務を希望した卒業年次生は約 2 割だった。これは、厚生労働省「平成 29 年雇用動向調査結果の概要」で示す「20～24 歳」女性の離職率 27.3％[22] と大きくかわらず、3 年未満の勤務を希望する歯科衛生士学生の割合が全国の同年代の一般女性の実態と同じ傾向であることが示された。併せて、「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 （平成 30 年度）」では、「できるだけ転職せずに同じ職場で働きたい」と回答した者が 23.6％であり [23]、現代の若者の仕事に対する考え方の特徴の現れとも考えられる。

看護学生には卒業前の「計画的キャリアアップ型」がある [24] と報告されているように、卒後の就職先での勤務を経て歯科衛生士としての就業先を換える、いわゆるキャリアアップを目指した転職もあろう。しかし、離職中の歯科衛生士が挙げている再就職の障壁には、技術面の不安をはじめとした歯科衛生士側の要因と、就労環境に代表される雇用側の要因の両者がある [25] ことから、歯科衛生士業務への再就労に必ずつながるわけでなく困難な場合も想定できる。

希望勤務年数について、「3 年未満」が約 2 割、「3～5 年未満」を合わせると 6 割を超える本調査の結果に、将来に繋がる前向きな離職がどの程度含まれているか不明である。しかし、看護職のキャリア・アンカーは少なくとも 5 年以上の仕事経験によって安定する [26] といわれているように、同じ医療関係の対人サービスを行う職種として、一定期間の継続した就業が求められると考える。したがって、キャリアアップを目的とした転職の構想があっても、歯科衛生士としての職業基盤をつくる場として、卒業して最初の就職先での職務経験は重要である。実際に、17 都府県在住の歯科衛生士約 1,700 名を対象とした調査では、歯科衛生士免許取得後 5 年目までの者のうち、歯科衛生士業務に従事していない者の今後については「よい勤務先があればつきたい」と 33.8％が回答し、歯科医療以外の就業者は 17％にのぼる [27]。こうしたことから、今後の新人歯科衛生士の就業継続の促進に向けて、20 歳代歯科衛生士に対する就労観についても把握する必要があると考えられる。

本調査の結果、学生の 6 割が歯科衛生士志望に肯定感をもち、5 割が歯科衛生士とし

て生涯勤続を希望し、歯科衛生士の仕事にやりがいを感じる者は 8 割を超えていた。キャリア展望が描けている者は約 4 割にとどまり、キャリア教育を受けた経験のある者はいずれの希望勤務年数でも 3 割に達していなかった。全国の研修歯科医を対象とした先行研究では、キャリア展望を「描けている」と「やや描けている」と回答した者を合わせると 66.5%、大学でキャリア教育を受講した経験のある者は 13.7%であり、「キャリア教育は将来設計を描くにあたり有効である可能性が示唆された」と述べている[18]。研修歯科医と比較して、歯科衛生士の卒業年次生はキャリア教育受講経験の割合は高いがキャリア展望が描けている者の割合が低かった。その他、女性が医療系職業を継続する意思を高めるために卒前教育の重要性が指摘されている[28-29]。歯科衛生士学生の就業継続の意思向上に向けて、キャリア展望が描けるような歯科衛生士養成課程におけるキャリア教育の拡充および学習の機会の提供が求められる。

学生の約 8 割は仕事と生活と両立した働き方を望んでおり、自己研鑽のひとつである認定歯科衛生士[30]の取得意向は 5 割程度で、研修会への継続参加は約 7 割が意欲を示した。看護学生についてもワークライフバランスの意識は高く、医学教育では将来のキャリア継続にむけてワークライフバランスに関して教育を充実させる必要性を強調している[31,32]。就業歯科衛生士を対象とした調査より、ワークライフバランスが歯科衛生士の就業継続に重要であることを明らかにしている[33]ことからも、歯科衛生士学生の働き方や自己研鑽の意向を踏まえた教育や就労環境づくりが、歯科衛生士の就業継続に寄与すると思われる。

学生の就労および職業に関する意識および意向について、地域で違いがみられたのは、歯科衛生士志望への肯定感と歯科衛生士として生涯勤続を希望する者の割合だった。歯科衛生士志望の肯定感をもつ者が高率だったのは「東海」で、低率は「北海道」、歯科衛生士として生涯勤務を希望する者が高率だったのは「東海」で、低率は「九州・沖縄」だったのは、地域の就労環境や勤務条件の違いが影響を与えている可能性がある。希望勤務年数の結果は、生涯勤務の希望の結果と合致していたことから、早期離職の意向と生涯勤務の継続希望は関係があると示唆された。

コメディカルの学生を対象とした調査結果では、職業志望の強化が学習のモチベーションを高めるために有効な方法であることを指摘しているが[34]、本研究においても歯科衛生士学生の職業志望を肯定することは学習効果を高めることに寄与すると考える。また、本研究の結果から、全国のなかで「東海」の歯科衛生士学生は、歯科衛生士志望を肯定する者が最も多く、歯科衛生士として生涯勤続を望んでいることがわかった。地方の医療福祉関連大学の学生は、女性の就業イメージ、キャリア、生活指向に特性があると報告されていることから[35]、歯科衛生士の就業に関しても地域性が生涯勤続の希望に影響する可能性が示唆された。

本調査より、希望勤務年数が長いほど就労および職業に関する意識および意向が高いことから、希望勤務年数は就労や職業に対する前向きな姿勢をあらわすことが示された。さらに、希望勤務年数の長短にかかわらずキャリア教育の受講経験者率が低値であった。看護職での、就業直前の職業への準備性と職業志向について検討した先行研究では、学生時代から職業への準備性を高めることが新卒看護職の早期離職を防止するために重要である[36]と報告している。職種は異なるが、歯科衛生士学生へのキャリア教育の推進は、職務継続意思を高めるために役立つ可能性がある。

今回の結果より、対象者の 9 割以上が女性で、SOC 得点の平均（標準偏差）は 14.36（3.40）だった。これは、日本の全国代表サンプル調査の女性における 25～29 歳の平均値（標準偏差）の 14.78（3.42）[37] に近似し、歯科衛生士学校の卒業年次生の SOC は、同年代の一般女性と大差ない。また、本研究から、歯科衛生士学生の職業観および就労観は SOC と有意に関連している可能性が示された。具体的には、SOC が高いほど、希望勤務年数が長く、歯科衛生士志望の肯定感、継続勤務の希望、仕事へのやりがいをもち、キャリア展望を描けていて、自己研鑽の意欲が高く、キャリア教育の受講経験を有していることがわかり、歯科衛生学生の首尾一貫感覚は、職業意識や就労意欲と関連する可能性が示唆された。先行研究より、SOC は先天的に備わっているものではなく、環境によって後天的に形成されるもの[13] で、学校での成功体験がキャリア志向を高めるといわれている[38]。歯科衛生士教育課程における就職支援行う場合は、歯科衛生士学生のSOC を考慮する必要がある[12] との提言を踏まえると、SOC の概念を取り入れたキャリア教育が歯科衛生士学生の首尾一貫感覚の発達形成につながると考える。

今回、SOC 3- UTHS の下位感覚のうち有意味感が処理可能感および把握可能感よりも平均値が低かった。歯科衛生士学生を対象に社会人基礎力と SOC との関連をみた先行研究の結果からも、有意味感が処理可能感および把握可能感と異なり負の相関を示したことが報告されている[12]。3 つの下位感覚のうち、有意味感は他の 2 つの感覚に影響を及ぼすとして重要視されている[13] ことから、歯科衛生士学生の有意味感の向上が必要であると考える。有意味感の要素に含まれる「新奇性の追求」は、直面する課題をポジティブに捉え、将来直面する出来事について前向きに取組む姿勢を指している[13]。今後、学生が卒業後に困難やストレスに直面した際に資源となり得る環境づくりのひとつとして、歯科衛生士養成課程におけるキャリア教育を通じ、養成機関の支援体制や人間関係の構築を含む教育方略や教育環境の充実が求められる。

本研究は悉皆調査による検討より、結果の一般可能性という点では意義が大きいと考えられる。しかし横断的な研究であることから、歯科衛生士の卒業年次生の就業や職業に対する意識や意向の実態は調査年の学生の特性である可能性があり、一般化には限界がある。また、歯科衛生士学生の SOC と職業観および就労観の因果関係の解明についても限界がある。

今後の研究課題として、歯科衛生士の就労については、雇用者が歯科衛生士の就業に対して要求していること、重要視していることを把握することが不可欠であると考える。そして、歯科衛生士学生の就業や職業に関するデータを蓄積するとともに、歯科医師の歯科衛生士雇用に関する意識や認識を明らかにする必要がある。さらに、介入研究や縦断研究により、SOC が職業観および就労観に及ぼす影響を究明するとともに、SOC 形成に携わる歯科衛生士教育の基盤を構築していく必要があると考えられる。

E. 結論

希望勤務年数が長いほど、学生の就労および職業に関する意識および意向に関して肯定的な回答が高率だった。また、希望勤務年数が「3 年未満」の生涯勤続を希望する者の割合は、「5 年以上」のおよそ 1/2 だった。さらに、歯科衛生士学生の SOC と職業観および就労観との関連性が明らかになり、歯科衛生士教育において SOC が意味する首尾一貫感覚を高める重要性が示唆された。

F. 引用文献

1）内閣府．経済財政運営と改革の基本方針 2019.https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2019/2019_basicpolicies_ja.pdf（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）

2）一般社団法人日本歯科衛生士会．歯科衛生士の人材確保・復職支援等に関する検討会報告書． https://www.jdha.or.jp/pdf/outline/fukusyokusien.pdf（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）

3）村井 亜希子, 錦織 良, 神 光一郎．歯科衛生士の需要と供給に関する検討．歯科医学 2020; 83: 68-75.

4）上田 由利子, 弥郡 彰彦, 長崎 康俊, 他．未就業歯科衛生士の復職に関する研究.日本歯科医療管理学会雑誌 2011; 45: 286-293.

5）吉田 隆, 江田 節子, 高久 悟．歯科医療機関における歯科衛生士の従事に関する検討(第 1 報) 埼玉県内の歯科診療所における歯科衛生士の現状．日本歯科医療管理学会雑誌 2009; 44: 144-151.

6）岡田 彩子, 野村 義明, 向井田 克, 他．潜在歯科衛生士の再就職に影響する因子の探索(岩手県歯科衛生士実態調査より)．口腔衛生学会雑誌 2019; 69: 86-92.

7）小原 由紀, 古川 清香, 安藤 雄一, 他．求人状況からみた歯科診療所における歯科衛生士不足に関する研究 日本歯科医師会会員を対象とした全国調査による分析．口腔衛生学会雑誌 2012; 62: 282-288.

8）田口 可奈子．成人の歯科予防処置に必要な歯科衛生士数の評価 山梨県の歯科医療機関における質問紙調査から．口腔衛生学会雑誌 2017; 67: 18-22.

9）公益社団法人日本歯科医師会．歯科衛生士の復職支援事業 https://www.jda.or.jp/return-to-work/（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）

10）Jin K, Nakatsuka M, Maesoma A, et al. Employment status of dental hygienists in Japan. Journal of Osaka Dental University 2017; 51:99-104.

11）Antonovsky A .structure and properties of the sense of coherence scale. Soc Sci Med 1993; 36:7257-7233.

12）秋房 住郎, 泉 繭依, 高橋 由希子, 他.口腔保健学科学生の社会人基礎力とレジリエンスおよび Sense of Coherence との関連．日本歯科衛生教育学会雑誌 2018; 9:78-85.

13）Antonovsky A. Unraveling the Mystery of Health: How People Manage Stress and Stay Well. Jossey-Bass Publishers, San Francisco, 1987.

14）一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会.養成校一覧 http://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/school/index.html（2020 年 4 月 10 日アクセス可能）

15）公益社団法人日本歯科衛生士会．歯科衛生士養成学校一覧 https://www.jdha.or.jp/training/school.html（2020 年 4 月 10 日アクセス可能）

16）文部科学省.文部科学大臣指定（認定）医療関係技術者養成学校一覧（平成 30 年 5 月 1 日現在）「歯科衛生士学校」 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2019/02/22/1353400_13.pdf（2020 年 4 月 10 日アクセス可能）

17）Togari T, Yamazaki Y, Nakayama K, Shimizu J .Development of a short version of the sense of coherence scale for population survey. J Epidemiol Community Health 2007; 61:921-922.

18）長谷 晃広, 相田 潤, 坪谷 透, 他．キャリア教育と研修歯科医の将来設計の関係

全国の研修歯科医を対象とした横断研究. 口腔衛生学会雑誌 2015; 65: 276-282.
19）厚生労働省. 新規学卒者の離職状況「新規学卒就職者の在職期間別離職率の推移」https://www.mhlw.go.jp/content/11650000/000689565.pdf（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）
20）勝尾 信一, 吉江 由加里, 坂下 香苗, 他. 全職種を対象にした就職後 3 年・5 年研修の検証. 日本医療マネジメント学会雑誌 2011; 11:256-259.
21）一般財団法人 歯科医療振興財. 歯科衛生士国家試験. http://www.dc-training.or.jp/siken1.html （2021 年 3 月 11 日アクセス可能）
22）厚生労働省. 平成 29 年雇用動向調査結果の概要「3.性、年齢階級別の入職と離職」https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/doukou/18-2/dl/kekka_gaiyo-03.pdf（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）
23）内閣府. 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査 （平成 30 年度）「第 4 章 職業関係」https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf-index.html（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）
24）山内 栄子, 松本 葉子, 杉本 吉美, 他. 看護大学の学生における卒業前のキャリアデザイン.日本看護学教育学会誌 2008; 18:43-53.
25）Usui Y, Miura H. Workforce re-entry for Japanese unemployed dental hygienists. International Journal of Dental Hygiene 2015; 13:74-78.
26）坂口 桃子. 看護職のキャリア・ディベロップメントに関する実証的研究 キャリア志向のタイプと形成時期.日本看護管理学会誌 1999; 3:52-59.
27）小島 登喜子, 末高 武彦. 歯科医療業務従事歯科衛生士数の将来推計に関する調査研究.口腔衛生学会雑誌 1997; 47: 663-674.
28）田中 希穂, 豊島 めぐみ, 井内 伸栄, 他. 看護師養成初期段階における学習動機づけと職業的アイデンティティおよび学校適応感の関連.日本医学看護学教育学会誌 2019; 28: 9-16.
29) 山口 治隆, 藤本 裕俊, 秋山 祥子, 他. 女子医学生の「結婚後仕事を継続する意思」と「医師という職業への興味」との関連.日本プライマリ・ケア連合学会誌 2014; 37: 16-21.
30）公益社団法人日本歯科衛生士会. 認定歯科衛生士について.https://www.jdha.or.jp/learning/ninteidh.html（2021 年 3 月 11 日アクセス可能）
31）播磨 弘子, 久木原 博子, 内山 久美, 他. 看護学生が就職後に希望するワーク・ライフ・バランスに関する意識調査.看護・保健科学研究誌 2019; 19:40-49.
32）久芳 さやか, 伊東 昌子, 松坂 雄亮, 他. キャリアを継続するために卒前教育でできる事とは?医学生におけるワークライフバランス、将来設計の意識調査より.長崎医学会雑誌 2013; 91:1-6.
33）上浦 環, 小笠原 正, 増田 裕次, 他. 歯科衛生士の就業継続意思に影響する要因外的・内的キャリアとの関連性.日本歯科医療管理学会雑誌 2020; 54: 275-286.
34）Sugii Y. Study on scholastic motivation as seen from occupational aspirations. Journal of Junshin Gakuen University, Faculty of Health Sciences2018; 7:95-100.
35）鄭 佳紅, 小林 昭子, 小山内 豊彦, 他. 地方の医療福祉関連大学で学ぶ学生のキャリア・生活指向と就職先選択の関係 青森県調査.日本ヒューマンケア科学会誌 2018;

11:28-36.
36）藤井 宏子, 戸梶 亜紀彦. 助産学を専攻する学生の職業意識の成熟に関する検討 新卒看護職の離職を背景に.日本医療・病院管理学会誌 2008; 45:205-214.
37）健康生成力 SOC と人生・社会: 全国代表サンプル調査と分析 2017/山崎 喜比古（監修）, 戸ヶ里 泰典（編集）有信堂高文社. p 56-59.
38）Feldt T, Kokko K, Kinnunen U, et al. The Role of Family Background, School Success, and Career Orientation in the Development of Sense of Coherence. European Psychologist2005; 10:298-308.

G. 研究発表

1）田野ルミ, 三浦宏子, 福田英輝, 大島克郎. 歯科衛生士の働き方等に関する意向:歯科衛生士学校養成所および卒業年次生への調査. 第 79 回日本公衆衛生学会総会抄録集: 420.2020.

2） Rumi Tano, Hiroko Miura, Katsuo Oshima, Kanako Noritake, Hideki Fukuda. The Relationship between the Sense of Coherence of Dental Hygiene Students in Their Graduation Year and Their View of the Profession and Attitude to Work: A Cross-Sectional Survey in Japan. Int J Environ Res Public Health2020; 17: 9594. doi: 10.3390/ijerph17249594

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

説明文書（調査へのご協力のお願い）の内容をご確認いただき、下記の□に✓を記入したうえでご回答をお願いいたします。（確認欄）　□　説明文書の内容を確認したうえで、調査へ協力することに同意します

令和元年度厚生労働科学研究「歯科医療従事者の働き方と今後の需給等に関する調査研究」

歯科衛生士の働き方等に関する調査　調査票

ご回答は、鉛筆または黒・青のボールペンで、当てはまる数字に○印で囲んでいただくか、数字・文字をご記入ください。

1.　貴校についてお答えください（令和元年 11 月現在）。

①学校のエリアブロック ※○は１つ	1.　北海道　2.　東北　3.　関東/甲信越 4.　東海　5.　近畿/北陸　6.　中国/四国 7.　九州/沖縄
②歯科衛生士養成課程を開設してからの年数	1.　５年未満　2.　5～10 年未満 3.　10～20 年未満　4.　20～30 年未満 5.　30～40 年未満　6.　40 年以上
③修業年限　※○は１つ	1.　３年制　2.　４年制
④歯科衛生士課程以外の学部/学科/専攻等の有無 ※○は１つ	1.　あり　2.　なし
⑤歯科衛生士課程において歯科衛生士以外に取得可能な資格・免許の有無 ※○は１つ	1.　あり　2.　なし
⑥最終学年の在籍学生数	□　名

2.　貴校の、歯科衛生士教育における「将来設計に関する教育（以下、キャリア教育）」についてお答えください（令和元年 11 月現在）。

①キャリア教育を目的に授業科目として設定している講義の有無 ※○は１つ	1.　講義がある→約 □ 時間 ※学生一人が修業期間に受講する、おおよその時間数を数値（整数）でご記入ください 2.　講義がない 3.　（講義の有無が）分からない
②講義以外で、キャリア教育を目的とした取組みの実施状況 ※○は１つ	1.　実施している→（　　） ※主な取組み内容を（　　）にご記載ください 2.　実施していない 3.　（実施の有無が）分からない
③学習時期 ※該当する数字全てに○	1.　１年次　2.　２年次 3.　３年次　4.　４年次

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

学生様よりご回答頂いた調査票とともに、１１月２２日（金）までにご返送ください。

説明文書（調査へのご協力のお願い）の内容をご確認いただき、下記の□に✓を記入したうえでご回答をお願いいたします。（確認欄）　□　説明文書の内容を確認したうえで、調査へ協力することに同意します

令和元年度厚生労働科学研究「歯科医療従事者の働き方と今後の需給等に関する調査研究」

歯科衛生士の働き方等に関する調査　調査票

・調査票はこの用紙の両面です。1～4 ページまであります。
・調査票、提出用封筒へ学校名やお名前をご記載いただく必要はありません。
・ご回答は、鉛筆または黒・青のボールペンでお願いします。
・ご回答は、あてはまる数字に〇印で囲んでいただくか、数字のご記入をお願いします。
「その他」を選択の場合は、（　　）に具体的な内容をご記載ください。

問 1.　歯科衛生士学校に進学した理由はどのようなことですか？
最もあてはまるもの 1 つに〇をつけてください。

1.　資格の取得（歯科衛生士以外を含む）	2.　医療職への興味・関心
3.　人からの勧め（家族、先生等）	4.　歯科衛生士を志望
5.　学校の場所（立地/通学の便）	6.　就職に困らない
7.　経済的に自立できる	8.　短期大学/4 年制大学の卒業
9.　特に理由はない	
10. その他（具体的に：　　）	

問 2.　歯科衛生士の志望に際し、影響を受けた人はだれですか？
最もあてはまるもの 1 つに〇をつけてください。

1.　家族	2.　親戚	3.　先生	4.　友人	5.　なし
6.　その他（具体的に：　　）				

歯科衛生士学校 入学時について、問 3 と 4 にお答えください。

問 3.　入学時、あなたは卒業後の進路をどのように考えていましたか？
最もあてはまるもの 1 つに〇をつけてください。

1.　歯科衛生士としての就職	2.　歯科衛生士以外として就職
3.　進学（大学、大学院等）	4.　考えていなかった
5.　その他（具体的に：　　）	

問 4.　入学時、あなたはどのようなところで働きたいと考えていましたか？
最もあてはまるもの 1 つに〇をつけてください。

1.　歯科診療所	2.　病院/大学病院	3.　行政（保健所/都道府県/市区町村）
4.　介護保険施設等	5.　企業	6.　歯科衛生士養成学校
7.　考えていなかった	8.　その他（具体的に：　　）	

歯科衛生士学校　卒業後すぐ　についてお答えください。

問５.　卒業後すぐ、あなたは「歯科衛生士として就職」しますか？　　あてはまるもの１つに○をつけてください。「2. いいえ」に回答の方は、a～d の１つに○をつけてください。

1.　はい
2.　いいえ→a. 歯科衛生士以外として就職　　b. 大学、大学院等へ進学　　c. 未定
d. その他（具体的に：　　）

問５で、「1. はい」と回答した方は、問６にお進みください。
「2. いいえ」と回答した方は、問 11 にお進みください。

問６.　卒業後すぐ、どのようなところで働きたいと考えていますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1.　歯科診療所	2.　病院/大学病院	3.　行政（保健所/都道府県/市区町村）
4.　介護保険施設等	5.　企業	6.　歯科衛生士養成学校
7.　考えていない	8.　その他（具体的に：　　）	

問７.　卒業後すぐ、の就職先を決めるにあたり、影響を受けた人はだれですか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1.　家族	2.　親戚	3.　在学校の先生	4.　実習先の歯科医師・歯科衛生士
5.　友人	6.　なし	7.　その他（具体的に：　　）	

問８.　卒業後すぐ、最初の勤務先で、何年くらい働きたいと考えていますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1.　10 年以上	2.　５年～10 年未満	3.　３年～5 年未満
4.　１年～3 年未満	5.　１年未満	

問９.　卒業後すぐの就職に不安がありますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. 自分の技術・知識不足	2. 職場の人間関係	3. 業務内容	4. 勤務条件※
5. 給与	6. 心身の健康	7.（家庭）生活との両立	8. 不安はない
9. その他（具体的に：　　）			

※勤務時間、手当、休暇等

問 10.　就職先を決める際に重視するのは、どのようなことですか？　　選択肢より、重視する順番に、１位から３位までお答えください。

1. 給与	2. 勤務時間	3. 勤務場所	4. 福利厚生
5. 業務内容	6. 職場の人間関係	7. 新人教育体制	

第１位		第２位		第３位	

今現在のお気持ちをお聞かせください

問１１．　現在、あなたは歯科衛生士を志望してよかったと思いますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. はい	2. いいえ	3. どちらともいえない

問１２．　生涯、歯科衛生士として働き続けたいと思いますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. はい	2. いいえ	3. どちらともいえない

問 13.　歯科衛生士を長く続けるためにはどのようなことが大切だと思いますか？
選択肢より、重要だと思う順番に、１位から３位までお答えください。

1. 自分のスキル	2. 仕事へのやりがい	3. 心身の健康
4. 勤務条件（勤務時間・福利厚生）	5. 勤務待遇（給与）	6. 相談できる環境
7. 復職時のサポート（研修会等）	8. 家族の理解やサポート（家事分担等）	
9. 社会的なサポート（保育園等）		

第１位		第２位		第３位	

問 14.　歯科衛生士はやりがいのある仕事だと思いますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. はい	2. いいえ	3. どちらともいえない

問 15.　現時点であなたはキャリア展望（仕事における将来設計）を描けていますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. 描けている	2. やや描けている	3. あまり描けていない
4. 描けていない		

問 16.　現時点であなたは、仕事と（自分の）生活のバランスをどのように描いていますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. 仕事と生活と両立	2. 仕事優先	3. 生活優先

問 17.　歯科関係の研修会や勉強会に継続して参加したいと思いますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. とても思う	2. やや思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない

問 18.　今後、「認定歯科衛生士」を取得したいと思いますか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. とても思う	2. やや思う	3. あまり思わない	4. 全く思わない
5. 「認定歯科衛生士」を知らない			

問 19.　歯科衛生士学校で、キャリア展望（仕事における将来設計）に関する教育を受けましたか？
最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1. 受けた	2. 受けなかった	3. 覚えていない

問 20.　下記の①～③について、１から７のうち、あなたの感じ方を最もよく表わしている数字１つに○をつけてください。

	よくあてはまる ←→ まったくあてはまらない						
①私は、日常生じる困難や問題の解決策をみつけることができる。	1	2	3	4	5	6	7
②私は、人生で生じる困難や問題のいくつかは、向き合い、取り組む価値があると思う。	1	2	3	4	5	6	7
③私は、日常生じる困難や問題を理解したり予測したりできる。	1	2	3	4	5	6	7

問 21.　歯科衛生士学校を卒業しておおよそ 10 年後について、あなたはどのような進路を思い描いていますか？　最もあてはまるもの１つに○をつけてください。

1.　歯科衛生士として就職	2.　歯科衛生士以外として就職
3.　進学（大学、大学院等）	4.　その他（具体的に：　　）

問22.　ご自身についてお答えください。

①性別	1.　男　　2.　女
②年齢(2019 年 12 月 1 日時点)	□　歳　※数字をご記入ください
③昼間部と夜間部の別 ※○は１つ	1.　昼間部 2.　夜間部
④歯科衛生士学校入学直前に修了した教育課程 ※○は１つ	1.　高校　　2.　専門学校　　3.　短期大学 4.　大学 5.　その他（具体的に：　　）

設問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

提出用封筒にて密封し、担当の先生のご指示に従って提出してください。